



2022年県連フリー登山バス

2022 県連フリー登山バス 特集号にむけて

2022 広島県連フリー登山バス
実行委員会 幹事 吉田昌利

県連の恒例行事であるフリー登山バスは、新型コロナウイルスの感染拡大で、2019年度のツアー後、2年間中止を余儀なくされましたが、ワクチン等で落ち着いた感もあり、今年こそはという意気込みで年度初めより企画をスタート致しました。しかし、まだまだコロナ禍の中、はたして参加者が集まるのか？という不安がありました。あつという間に8パーティー42名の参加を受け、7月21日より25日の日程で実施いたしました。

出発日の翌日は雨、その後は好天に恵まれる予報に、各パーティー共、アプローチは雨でも核心部では好天の山行を期待されていたのが、雨が1日遅れ、ちょっと残念な想いをされたパーティーもあったようですが、そこは百戦錬磨のみなさま、それなりにアルプスを楽しまれたようでした。また、このバスツアーは、格安でアルプス方面に行けることもさることながら、普段それぞれに活動を行っておられる山の会同士が、相互にコミュニケーションを取り合い、親睦を深めあえることが一番の醍醐味（意義）だと思います。そのような中、今年のツアーはコロナに翻弄され、バス内では、マスクに「黙バス」でちょっと残念な環境ではありましたが、それでも、いろんな場所や場面で親睦を深める光景は見られ、ほっとしております。

このたび、参加された各パーティーから貴重な山行報告が届いており、「2022 年度夏山特集」として発刊させて頂く運びとなりましたので一読頂ければ幸いです。今回のバスツアーの実施にあたり、各会留守本部の方、県連留守本部の方、またこの特集号の編集者の方、他関係者、等々、バスツアーにご尽力くださった方々には、この場を借りてお礼申し上げます。

2022年8月

ページ	登山方面	所属山岳会	パーティー名	パーティー人数
2-3	双六・三俣蓮華	ひろしま令峰		6
4	槍ヶ岳	やまぼうし	チーム川谷	5
5	奥穂高～前穂高縦走	呉労山	山本グループ	4
6	笠ヶ岳	呉労山	高木チーム	2
7-8	上高地・涸沢	呉労山	Lucky7	3
9	西穂高独標	やまぼうし		10
10	笠ヶ岳	佐伯山の会	笠ヶ岳チーム	9
11	涸沢(奥穂高)	佐伯山の会	奥穂高チーム	3



HCR ひろしま令峰クラブ

2022年広島県連フリー登山バス

北アルプス 双六岳・三俣蓮華岳 報告書

R4年7月21日～7月25日

夏の北アルプスを満喫する 富山、長野、岐阜
三俣蓮華岳(2,841m)～双六岳(2,860m)

参加者

橋本 美智子 川后 敦美(SL) 栗原 智子(広報)
住田 由美子(会計) 増田 美佐子 後口 美里(CL)
(ひろしま令峰クラブ 女子6人パーティ)

行程

7月21日(木) 夕方から雨

7:30 広島駅出発 サービスエリアでトイレ休憩を取りながら
16時に平湯バスターミナル到着。参加者は各パーティに
分かれそれぞれの目的地に向かいました。

私たちは前泊のヨーデルへ路線バスで向かいました。

温泉で長旅の疲れを流し、飛騨牛のしゃぶしゃぶが場を盛り
上げました。

翌朝は登山口まで送
っていただき、お昼の
弁当までいただきました。

この日の記録担当

栗原 智子



7月22日(金) くもり

06:30 朝食
 07:00 新穂高温泉登山口(1,105m)
 08:50 わさび平小屋 (トレ 200 円)
 10:50 秩父沢出合
 12:50 シシウドが原 昼食
 14:50 鏡平山荘(2,284m)夕食と宿泊
 沢の音を聞きながら急坂を登り所々雪渓から降りる風を涼しく感じ、やっとの思いでたどり着いた鏡平池では映り込む山の姿に感動しました。運よく雨に降られず無事に鏡平山荘へ到着。名物のコーヒーフロートは別格の味でした。

この日の記録担当 増田 美佐子

7月23日(土) 雨のち晴れ

05:15 朝食
 06:00 鏡平山荘出発
 07:25 弓折乗越
 09:05 双六小屋 (トレ 200 円)
 12:40 三俣蓮華岳(2841m)昼食
 15:00 双六岳(2,860m)
 16:15 双六小屋(2,547m)夕食と宿泊



雨の中、鏡平山荘を出発！ガスで北アルプスの展望は見えませんが、たくさん高山植物が癒してくれました。三俣蓮華岳と双六岳前の急登は本当にきつかった。二日目の疲れから足取りも重く、予定時間を 2 時間も遅れました。双六岳では晴れ時折槍ヶ岳が顔をのぞかせてくれ、大感動でした。

この日の記録担当 橋本 美智子

7月24日(日) 雨のち晴れ

05:30 朝食
 06:20 双六小屋出発
 08:25 鏡平山荘
 10:30 秩父沢出合
 12:00 わさび平小屋 昼食
 13:45 新穂高温泉登山口 1105m
 西穂高ロープウェイで観光
 16:30 平湯の森 入浴と夕食
 21:00 県連バス乗車



7月25日(月) くもりのち晴れ

05:20 広島駅北口到着
 旅を終えてバスが静かに駅のバス発着場に滑り込みます。お土産で膨れたくそ重いザックを、あぶら汗を額に姉妹たちはめげずに担ぎます。痛い首・肩・背中・腰・脚(つまり全身)、満身創痍になりながらも、なぜか心は満たされています。それはお土産入りザック以上に旅の達成感と幸福感で心が膨れていたからです。すでに来年に向けての夢も始まっているのです。

この日の記録担当 CL 後口 美里



双六岳からの槍ヶ岳が雲の隙間から大きな姿を現した時には、それまでの大変さもあって、感動して涙が出てきました。

会計担当 住田 由美子



双六岳、三俣蓮華登山に参加して、何より雄大な北アルプスの山々を間近に見ることができ、感動の連続でした。ガスの中からの槍ヶ岳は圧巻でした。雨でも、歩きにくい登山道でも沢山の花たちに出会えてうれしかった！

SL 川后 敦美



やまぼうし チーム川谷

槍ヶ岳 山行報告

参加者 CL川谷伸哉 SL藤原秀美 栗栖朋子 宮本幸美 菅原孝典

7/22 (1日目) 晴れ後曇り夜雨

平湯温泉バス停 7:30 発→7:55 上高地バスターミナル 8:00→9:10 明神館→明神池散策→10:20 明神館→11:20 徳沢ロッジ→12:20 横尾山荘 昼食 12:50→13:50 一の俣→14:30 槍沢ロッヂ

前日まで雨の予報だったが幸いに晴れ、水の美しい梓川や明神岳・高山植物を鑑賞しながら上高地を歩く。

個人的には山小屋(槍沢ロッヂ)でお風呂に入れたことと、乾燥室に感動でした。



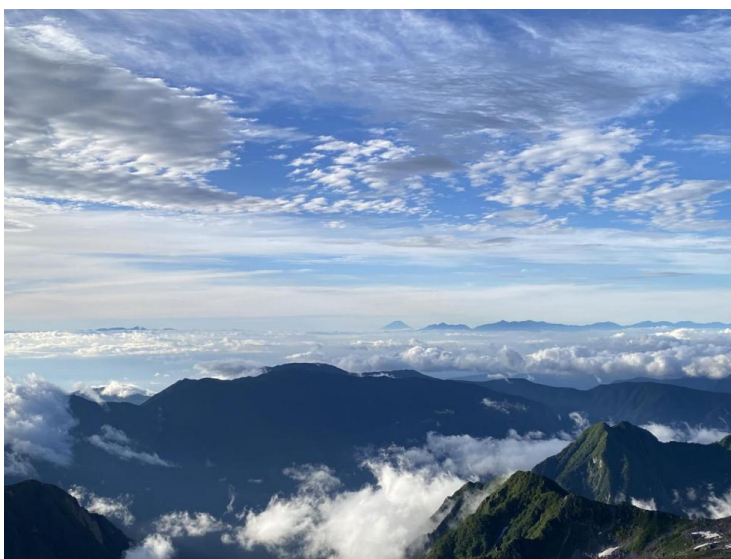
7/23 (2日目) 雨のち曇り夕方晴れ

槍沢ロッヂ 5:30→赤沢岩小屋→6:05 ババ平→6:40 水俣乗越分岐→8:00 天狗池分岐→9:20 坊主岩小屋→11:00 槍ヶ岳山荘・昼食休憩(天候回復待ち)13:45→14:20 槍ヶ岳山頂→15:00 槍ヶ岳山荘

22日夜から雨が時折り強く降る。朝になっても止まず、小雨の中を雨装備で出発する。標高 1,820mの槍沢から出発したが標高 2,500m辺りから高度順応に対応できず身体が重くなる。ガスで視界は遮られ雨も止まず苦しい時間帯だった。

雨量の増えた沢で靴が濡れたり、ザックが濡れた人もいたので改めて装備の充実と余裕のある行程が大切だと感じた。

天候回復後、槍ヶ岳登頂に挑戦。登頂中にガスが晴れて山頂からの美しい景色に感動。



7/24 (3日目) 晴れ(強風)

槍ヶ岳登山口 5:20→山頂→6:00 槍ヶ岳山荘発→坊主岩小屋→天狗池分岐→水俣乗越分岐→ババ平→赤沢岩小屋→10:40 槍沢ロッヂ 10:50→11:20 一の俣→12:20 横尾山荘(昼食)12:50→13:40 新村橋→14:00 徳沢ロッジ→15:00 明神館→15:50 上高地バスターミナル発 16:00→16:26 平湯温泉バス停

明け方3時ころまで山頂はガスで視界ゼロだったが、日の出前には強風のおかげかガスが晴れて絶景を楽しめた。

朝食後、2度目の槍ヶ岳登頂。山頂から北アルプスのみならず遠くに見える富士山の景色を楽しむ。6時に下山開始。

槍の穂先を振り返っては眺めつつ、長い長一い下山路をひたすら歩く。また来るねと明神岳に別れを告げて上高地を後にした。

文責 菅原

広島県連フリー登山バス(2022年7月21日～25日)

奥穂高岳～前穂高岳縦走登山報告書

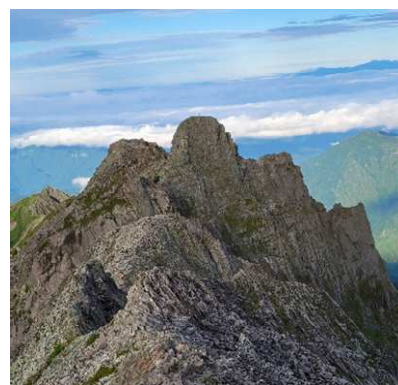
(呉労山・山本グループ 平田記)

7月21日 集合場所にて顔見知りの他会の方々と挨拶を交わし明日からの天気を心配しつつ一路平湯温泉に向け出発する。予定通り平湯温泉に着き小雨の中を小走りに今夜の宿に駆け込みチェックインを済ませ温泉につかり気持ちよくなってからの宴会は仲間と山に登る楽しみのうちの大部分を占めていると言っても過言ではない(笑)。とは言え明日からの事を考え早々に切り上げ就寝。

7月23日 4時に目覚めるが、昨夜からの雨がまだ降り続けている。予報では昼前には止むとの事だが、当初の計画であった北穂高岳～涸沢岳～穂高岳山荘へのルートは断念し直接穂高岳山荘に行くことにした。雨の上がるのを待ってギリギリに出るより早めに出てゆっくり時間をかけ安全に登ることにする。30分も歩くと青空が広がりザイテングラート取付では岩も乾き始め「天応の濡れた岩場の方が怖いよね」と言いながらスムーズに登りきる。穂高岳山荘に荷物を置いて涸沢岳を往復、山荘にて有り余る時間を過ごし絶景を楽しむ。西日が赤く染まり山の色を変え、雲海を赤く染める。山に登らなければ絶対に見る事の出来ない最高の景色。至福の一日となった。



(雲海に浮かぶ笠ヶ岳に沈む夕日)



(迫力のくつきりジャングルム)

7月24日 予定通りに山荘を出発、青空と共に奥穂高岳～前穂高岳と進む。360度の絶景に歓喜し歩みを止め、休みが多くなり楽な山歩きとなる。これが上高地最終バスにギリギリセーフとなり少々焦った。反省。

(Sさんコメント) 今回、穂高岳縦走に誘って頂き、メンバーに迷惑をかけずに歩けるかとても不安でした。数か月前から天応烏帽子岩山、鎌倉寺山岩場歩き、ロープワーク等訓練して下さり、お陰様で無事登山する事が出来ました。好天に恵まれ大展望、夏山満喫させて頂きました。リーダー、パーティーの皆さんに感謝です。又涸沢小屋では他会のグループとの交流もあり楽しく過ごさせて頂きました。有難うございました。

(Kさんコメント) 奥穂高岳～前穂高岳縦走、頑張った者だけにステキな天体ショーのご褒美。最高な三日間でした。またあの景色に出逢いたい。

22日 平湯発6時00分⇒上高地着6時30分・横尾着10時10分・涸沢小屋着14時50分(涸沢小屋泊)

23日 涸沢小屋発7時30分・穂高岳山荘着10時30分(休息)12時30分発涸沢岳往復1時間(穂高岳山荘泊)

24日 穂高岳山荘発5時20分・奥穂高岳山頂着6時20分・前穂高岳山頂着10時10分・涸沢小屋着14時30分・上高地バス停着17時20分

笠ヶ岳(2897.6m)

呉労山 高本チーム

【7月21日(木)】

広島駅7:30 = = = 平湯温泉 16:40 = 🚌 うちのペンション泊

【7月22日(金)】

宿 5:30 = 登山口 5:40 = 笠新道登山口 6:45 = 杓子平 12:00 = 笠新道分岐 14:10 = 抜け戸岩 15:10 = 笠ヶ岳山荘 16:10 (泊)

朝からの雨は、笠新道登山口に着く頃には止む。ここから修行道が始まる。朝御飯のお弁当を少しずつ口に入れ進む。途中、佐伯チームと抜きつ抜かれつしながら進む。お陰様で、辛い急登も、ガスの中でも頑張れた。杓子平手前から、ニッコウキスゲ・チングルマ・コイワカガミ・姫こゆり等斜面いっぱいにお花畑が広がる。やっとこさ稜線に出る。標識に抱き着きたいほど嬉しかった。しかしここからも長い！アップダウンを繰り返し、雪渓を横切り、山荘にたどり着く。到着が遅いので、4時頃山荘から電話が入る。心配をおかけしました。



【7月23日(土)】

笠ヶ岳山荘 6:40 = 山頂 7:00 = 笠ヶ岳山荘 7:20/35 = 抜け戸岩 8:35 = 笠新道分岐 9:40 = 秩父平 11:50 = 大ノマ乗越 14:20 = 弓折岳 15:00 = 弓折分岐 15:20 = 鏡平山荘 16:30(泊)

昨夜からの雨と風。小降りになるのを待ち、予定より遅れ山頂へ。今日もカッパが手放せない。ガスで展望が無い中、ひたすら歩く。せめて雷鳥さんに会いたいね～とずっと話していたら、会えました！今日も遅くなりそうなので、その旨を山荘に電話をしておく。



【7月24日(日)】

鏡平山荘 7:00 = シシウドヶ原 8:00 = イタドリヶ原 8:45 = チボ岩 9:20 = 秩父沢出会 9:40 = 小池新道登山口 10:55 = ワサビ平小屋 11:20/12:00 = 登山口 13:25 = 中崎山荘奥飛騨の湯でゆったり/新穂高温泉 🚌 16:55 = 平湯温泉 17:30

最終日やっと晴れ、槍・穂高・・・と見渡せる。登山道は良く整備されている。段差は少なく平らな岩が並び下りが苦手な私でもサクサク下れる。ワサビ平小屋でそうめんを食べ、大休憩。登山口まで林道歩きが長く、温泉を楽しみに最後の力を振り絞る。奥飛騨の湯で汚れと疲れを落とし、平湯で皆と合流し、帰りのバスを待つ。

【7月25日(月)】 早朝広島駅着

あいにくの雨でしたが、何とか登頂できました。笠ヶ岳の山容は見ることはありませんでしたが、二人だけのゆっくり登山、無事下山出来て大満足しております。有難うございました。

《令和4年 広島県連フリー登山バス〔北アルプス 上高地・涸沢散策〕》

日 時 2022.7.21(木)～ 7.25(月)
参加者 鈴木(CL)・横川(SL)・松岡(会計)

三年ぶりの県連フリーバス、行く先決定までの経緯は悪戦苦闘の末、熾烈な陣取り合戦に敗れる。

【当初の目的】蝶ヶ岳ヒュッテ 2泊…山上でゆっくり・のんびり北アルプスの景観を楽しむ事。

今年から NET 予約開始(6/22～0:00am 受付)…パソコン前に 0 時前から陣取り、秒針が ZERO を指すと同時にクリック⇒全く不可 すでに空室×(なし)何度アクセスしても×××… TEL 予約(7/1～10:00am 受付 宿泊日により予約受付日の指定あり)…10 時 Just から 92 回の電話かけ⇒全て通話中で通じない。

コロナ禍の為、平年の 5 分の 1 の宿泊者数で、ようやくコールが通じて「ないです」プランの変更止むなし、と断念して変更プランを再申請する。


【変更プラン】上高地・涸沢散策

新プランを報告後、県連バス担当の吉田様からの返信に救われた。

「横尾山荘、涸沢ヒュッテ宿泊での新計画は、上高地、涸沢エリアを堪能出来る

最も優雅なハイキングとなりそうですね」

結果は大満足！ 優雅な上高地徹底散策 浮世を離れた贅沢な避暑となった\(^o^)/

7/21(木)(晴れ) 7:30 広島駅出発——16:15 長野県上高地平尾バスターミナル到着

7/22(金)(夜間雨→晴れ→夕方から小雨)

9:30 上高地バスターミナル出発(登山届投函—大正池—

ウェストン碑(12:40—河童橋(昼食・休憩)—

嘉門次小屋・穂高神社—明神橋—徳沢—横尾(18:

00 到着) [歩行 約 21km]



清々しい梓川の兩岸をゆったりと大正池に向かう。

フジバカマの花群で、今年初 アサギマダラ(僅か 1 頭だけど)との出会い、対岸のフジバカマ花群には3～4頭飛び回っていた。

至る所にある立札には、連日現れる野生の熊(親子クマ)の出没場所と時刻が書きこまれている(バツリと出遭いたくはないが、遠くから見てみたい好奇心あり)

ウェストン碑に着いた時、すぐ近くにある看板にクマ出現の時刻が訂正されていた。

本日 40 分前に、まさにここをクマが 1 頭、河原側から横切り笹原へ消えたと。「ヒエ～！」

寄り道・道草だらけで予定時間を大幅にオーバーし、流石に焦りを感じ始めた。

明神館からは健脚・速足の一人が先行して、後の2名は通過場所・到着予定時刻を山荘に連絡しながら歩く。誰もが感じていると思うが、横尾山荘までの道のりは長い！

徳沢過ぎ辺りから小雨が降り始めた。辺りは未だ明るい、クマの食事タイムなのでクマ除けの笛をピーピーけたたましく吹きながら「まだか…まだか…」とひたすら歩き続ける。

途中、野生の猿軍団(8～9 頭)とすれちがった。クマでなくてよかった！！

18 時丁度 ようやく横尾山荘に到着、先行の一人は 30 分前に着いたらしく我々の遅いチェックインも心配はされていなかったらしい(常識外れの到着時刻、ごめんなさい)。

7/23(土)(夜間雨→曇り→晴れ)

7:25 横尾山荘出発—本谷橋—12:00 涸沢ヒュッテ到着

13:30~15:00 パノラマ上コース散策(途中ショートカット)[歩行 約 5km+散策 1.2km]

夜間の雨も明け方には止み、山荘出発時は曇っていたが次第に晴れてきた。

この日は予定通りのタイムで涸沢ヒュッテに到着。

なんと！偶然にもテラスで佐伯山の会[奥穂高チーム]と再会し、「かんぱ〜い(^ ^♪)」

呉チームの 2 名はパノラマ上コースを散策し、チングルマの群生やお花畑のようなカラフルなテントの景観を楽しんだ。

7/24(日)(晴れ)

6:15 涸沢ヒュッテ出発—9:00 横尾山荘到着・休憩—嘉門次小屋(昼食・休憩)

—河童橋—上高地バスターミナー—16:00 平湯バスターミナル(夕食・休憩・他のグループと合流)

— 21:00 🚌乗車 [歩行 約 16km]

嘉門次小屋では名物イワナの塩焼きの下ごしらえや、囲炉裏で焼く光景を楽しみ、穂高神社へ無事下山のお礼参り

今回の県連フリーバスは、目指した山登りではなかったが、美しいけれど単に通過するだけが多い上高地を堪能したこと、佐伯山の会[奥穂高チーム]の方々との交流を深められたこと…など、とても楽しく意義深い山行となった。

下山最終日の、ちょっとしたお土産ハプニングとともにバスに乗り込む。

7/25(月)(晴れ)

5:30 広島駅到着 ここで[令和 4 年 県連フリーバス山行]の解散となった。

担当の吉田様他皆様、大変お世話になりました。 鈴木 記



上高地～涸沢 歩行コース

2022 年度県連フリー登山

西穂高独標と上高地・松本市内散策報告

やまぼうし後期高齢者 8 人、前期高齢者 1 人、60代1人の10名のメンバーで元会員高尾さんの追悼と北アルプスの景観、上高地・松本市内の散策を目的に県連登山バスに参加した。

7月21日(木)7:30 広島駅出発(41名)→16:15 平湯温泉着→16:30 発、新穂高行特急バス西穂高組 10人が乗車。運転手さんの好意により普段は止まらないバス停、深山荘前で停車してくれた。「内緒だよ」と笑って降車させてくれた。17:00 深山荘到着。川ペリの3段に連なる露天風呂は快適そのものであった。

7月22日(金)8:45 深山荘出発→9:30 ロープウェイ→10:08 西穂高口出発→12:05 西穂高山荘着(山荘でラーメン・カレーライスの昼食)→12:50 西穂高山荘出発→13:30 丸山山頂で独標へ行くグループと山荘へ戻るグループに別れる→14:40 独標(5人)高尾さんを偲んで1分間黙祷する→16:10 山荘着 16:30 頃から突然の大雨。一晩中降ったり止んだりして明日の下山ルート迷路。最終的には計画通り中尾根を下山することにした。山荘は5人の個室を2部屋用意してくれていたため、混雑観は感じず、食事もしっかり間隔をあけ3回に別れての食事で感染対策は完璧であった。雨がひどく線香が焚けないため明日に変更した。



7月23日(土)小雨の中、6:00 高尾さんの冥福を祈って黙祷。7:30 西穂高山荘出発→中尾根コースを下山 11:00 田代橋着 タベからの雨で上高地へ下山か北コースを下山するかずいぶん迷った。登山道の難易度はあまり変わらないので、ゆっくり中尾根コースを下山することを決めた。下山中転倒した人がいたが、たいしたことはなさそうなのでより気を付けて下山。上高地が初めての人がいたので梓川に沿って河童橋まで行く。ランチ後 13:20 上高地バスターミナル出発→14:20 新島々着→14:45 電車新島々駅発→15:45 松本駅着



松本市循環バスで池田屋ホテルへ。夕食は紹介していただいたウナギ専門店桜屋で。

7月25日(日)ホテルで朝食后2班に分かれて行動する。2名は美ヶ原へ、8名は松本城、石井味噌蔵、あがたの森公園、松本市立美術館を観光。個人的には美術館で草間彌生作品を見ることができ大満足。19:30 松本駅で10人バス乗車。高齢者グループの山行だったが大きな事故もなく独標まで行くことができたこと。会員の親睦ができたことで楽しい山旅行ができたと思っている。

(記 坂井エイコ)

佐伯山の会 笠ヶ岳チーム

2022年の県連バスハイクが実施でき、無事に下山できたことを嬉しく思います。ひとえに世話役の吉田さんに感謝、また各会のCLも皆さんにお疲れ様の言葉をおかけします。

2日目 中尾温泉→新穂高温泉→笠新道登山口→杓子平→岳分岐→笠ヶ岳→笠ヶ岳山荘

3日目 笠ヶ岳山荘→抜戸岳分岐→大ノマ岳→弓折乗越→鏡平山荘

4日目 鏡平山荘→(小池新道)→新穂高温泉→(ロープウェイ)→西穂山荘→新穂高温泉

2日目

皆で力を合わせて厳しい笠ヶ岳を登ろう。「試練と憧れ」登頂はきっと自信になるだろう。敢えて厳しい「クリヤ谷コース」を選ぶが、今年は未整備のため通行不可。笠新道へ変更する。こいつも手強い。午前5時ペンションの女将さんに雨の中を送ってもらう。笠新道登山口へ歩き着く頃には雨はあがる。今日は長丁場だと覚悟を決める。標高差1300㍎をひたすら登る。ジグザグの急登を延々と繰り返す。ササユリが素晴らしい。4時間半



もかかり杓子平へ出る。チングルマ、ハクサンイチゲ、シナノキンバイ、コバイケイソウ等のお花畑が広がり、心ワクワクする。今年は夏が遅いので雪解けの花と夏の花が同時に見られる。クロユリ、キバナノコマノツメ…私の好きな花だ。花を愛で雪渓で遊ぶ。抜戸岳分岐では流石にバテてしまう。時折り青空がのぞく稜線に元気をもらい、笠を目指す。結構に長い。雪渓を越え、ガラ場を抜けて16時に山小屋へ。みんなで一緒に笠山頂へ向かい記念写真。

3日目

生憎の冷たい小雨が降り続く朝。展望は効かず一日中こんな感じかと落胆する。なんといっても槍穂のパノラマコースを歩くのだが、お天道様に文句は言えない。合羽を着こみ抜戸岳へ向かう。雨の中でも高山植物は笑顔で迎えてくれる。大ノマ岳を経て弓折への長い稜線を重い足取りで進む。登山者は少なく静かな稜線歩きだ。この雨では双六へ向かう気力が湧かない。3名の双六小屋偵察部隊を除き、鏡平へ下ることにする。

弓折乗越から一気に人が増えてくる。双六や三俣へ向かう北アルプスの人気ルートだ。我々は鏡平へ下りてまったりとしよう。トイレや洗面所が新しくなった小屋はペンションのようだ。夕食の時間までビールを飲んで停滞していると、17時頃には雨も上がりガスも消えて、槍と穂高がしっかり見えてくる。急いで鏡池へ向かう。池に移る槍穂の姿は美しい。涙が出るほどまことに美しい。ずっとここにいたい。



4日目

最終日は好天となる。登ってくる多くの登山者と離合しながら新穂高温泉へ下る。秩父沢を渡り、わさび平小屋で冷たい物を飲み、あとはアスファルトの林道を下る。昼前には着いたので、ラーメンを食いに観光がてら、西穂山荘へ行こう。新穂高ロープウェイを乗り継ぎ、一気に2500㍎の高地へ再び。千石園地周辺はツガの針葉樹帯が霧囀気を出す。多くの人が行き交う道を1時間少し登り、西穂高山荘へ。残念ながら笠ヶ岳は雲がかかりその全容は確認できなかった。

ゆるゆる涸沢の旅

何年ぶりだろうか県連バス!! 胸がドキドキ。本当に行けるのだろうかあの重い荷物を担いでの山小屋どまり。

7月21日 広島駅集合し、9時間のバス旅の末、平湯温泉に到着。

7月22日 上高地からいよいよ本番。昨夜はかなりの雨、宿を出るときは雨が上がった。朝ごはんのむすび弁当を上高地で食べて、いざ8時過ぎ出発。荷物がやけに重い。肩に食い込む。河童橋、明神池、徳沢園にやっと到着。2時間かかる。ここでソフトクリーム食べて、また1時間てくてく歩く。横尾到着。さあ昼ご飯だーでもお腹がすいてない。

これからが正念場の登りなので、あまりおいしくないが山菜うどんを完食し涸沢へ。木谷のつり橋から2時間かけてやっと涸沢小屋に16時到着。こんなゆるハイクも楽しい。ギリギリセーフで雨が降り出した。



7月23日 涸沢は以前来た時より、テントの数が少なく少し寂しい思いでしたが、土曜日になると少し増えたが花盛りにはほど遠い。一晩中雨が降っている。朝も降りやまない。5時半の朝食が終わっても雨は降っている。残念だが、この分では奥穂高はピストンでは帰れない。富士山、北岳、残りは奥穂高なのに。本当!?

諦めて8時にザイテングラート取り付けまで行くことにして出発。雨でぬれている岩はないが、ほとんどガレ場、ザイテングラートに着いたが、また降り出した。

雨カッパを着て下山。濡れているところは滑りそう。途中パノラマコースは高山植物のお花畑。ここまで来るときも花は咲いていたのに登るのが一生懸命で見えなかった。

チングルマは上の高い所は花が咲いており、真ん中では少し枯れかかっており、テント場近くは、今にも飛び出しそうな風車。チングルマの一生にお目にかかった気がする。やはり標高差があると気温も差が出てくる当たり前であるが、花の一生そのもの。白山オミナエシ、キツリフネ、アケボノフウロ、カライトソウ、カジイチゴ etc の花々。

小屋に着きビール、おでんで乾杯。ビールはいつもおいしい。最高!!

昼からは良い天気なので、明日の朝はモルゲンロートがみられるかもしれないワクワク。

7月24日 朝4時過ぎに起こされて待機。、涸沢カールははっきり見えるのに、肝心の太陽がガスに阻まれて上がってこない。これも不発。今回はついてないのかしら?

早めに下山。明神池のところの嘉門次小屋で、ヤマメの塩焼きとざるそば、これでご機嫌。

上高地では美味しいアップルパイ。今回の山はグルメツアー 美味しかった

今回は途中からの申し込み、リーダーの方々に迷惑をかけての山でした。残念なこともありましたが、5年ぶりの山は最高でした。もう二度と来ることはないと思っていた山に来て、本当に感謝しかないと考えています。ありがとうございました。

記 原田量子





県連ニュース 2022 年8月号別冊（発行日 2022 年 8 月 15 日）

発行；広島県勤労者山岳連盟 編集責任者；滝史郎

〒735-0006 安芸郡府中町本町 1-10-55-201 E-mail:info@hpwaf.main.jp